

研修名 人権 I

平成29年9月19日(火) 13:30~16:00

講演 「人権を大切にする保育～子どもの人権に関する基礎知識を学ぶ～」

講師 佛教大学 原 清治 氏



## 1 講演要旨

- 1) 大学で増える「ぼっち席」
  - ① 尊重されない子（カーストの低い子）に多く見られる姿
  - ② ごっこ遊びを幼児期からたくさんしている子は「ぼっち席」を好まない
- 2) 幼児期の反映・・・小学生のドッチボールにもこんな姿が・・・  
しんどい立場の子に大人（先生）が寄り添うと自然に収まる
- 3) 最近の子どもたちの人間関係
  - ① 集団のカーストを見抜くことが大事
  - ② グループやクラス替えをするとよい
- 4) 子どもたちは、どのような人間関係を構築しているのか
- 5) 人権の視点からみた教育の公平性と卓越性  
その子の得意分野を伸ばしてあげることが大事
- 6) 貧困/格差と学力の問題「整理整頓」「計画性」「学校の勉強の定着」  
机に向かって勉強するよりも、大人（親）（先生）と話をすることも復習
- 7) 家庭での直接型コミュニケーションと学力との関係  
家で学校の話をして「している」児童ほど、平均正答率が高くなる傾向が見られる
- 8) 学力差によるいじめの違い「上位校」「多様校」
  - ① 上位校・・・何となくのノリでつるむ。一人ならいい子なのに集団になると怖い
  - ② 多様校・・・嫌と思うとすぐに手が出る。感情に任せる。自分さえ良かったらいい。
- 9) 高校の学力階層別にみたネットいじめ発生率  
人権の視点からのアプローチ  
いじり・・・幼児期から起きる
- 10) 文化葛藤理論と問題行動

- 1 1) 友達との関係への気づき  
「いじめがあったことが分かるようになった」「言いに来る子が多くなった」  
ことで良くなった。人間関係ができています。いじめの内容が軽くなった。
- 1 2) 人間関係といじめの認知行動  
「ネットいじめの有無」「ネットいじめの重さ」
- 1 3) 一人ひとりの子どもの発達に寄り添う  
ソーシャル・スキルを高める
- 1 4) ゲームで遊んだあと、後片付けができません。  
どのように声かけをしたらよいのでしょうか？
  - ① 「先生や親が手本を示す」
  - ② 「先生や親も一緒に、楽しそうにする」
  - ③ 「きょうだいや他の子と比較しない」
- 1 5) 子どもの人権に配慮した環境づくり  
幼児期からの経験で（何となくから）出来上がっている
- 1 6) 「つながり力」への気づき  
子どもと一緒にニュースを見て話をする 것도大切
- 1 7) 保育における人権「社会関係資本」への着眼  
「人間同士のつながりが大切」
  - ① いろいろな子と遊べる集団を作らなければならない
  - ② 集団を変えたり、大きくしたりする
  - ③ 安心・安全で、しっかりした集団を作ることが大事
  - ④ どの園でも、年長児がしっかりしていたら、年中児・年少児も見て出来るようになる

## 2 感想

とても楽しく話を聞かせていただきました。

また分かりやすく、保育士として母親として、どちらも勉強になり実行していこうと思います。幼児期からの積み重ねがたいせつということも分かり、何気ない言葉がけも気を付けていこうと思っています。日々、子どもの気持ちに寄り添いながら保育・子育てをして、人の気持ち（人の痛み）に気付ける子になってくれるように頑張ります。

そして、子どもの集団・グループをよく観察してカーストを見抜いて、気付いていこうと思います

機会があれば、また講演を聞かせていただきたいです。

お忙しい中、ありがとうございました。

(記録 綾部市立物部保育園 奥田まゆみ)